

久留米大学を受診した患者さんへ

「肝がん患者由来の肝組織における免疫組織染色法による mEH 及び AIM 発現の検証試験」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料（情報）を使用します。

- 1) 期間：平成 19 年 4 月から平成 27 年 3 月
- 2) 受診科：久留米大学病院 肝胆膵外科・肝がんセンター
- 3) 対象疾患名：肝細胞癌
- 4) 使用する試料（情報）：（血液、組織、診療情報等）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

1) 研究組織

研究代表者：	病理学講座	教授	矢野 博久
研究分担者：	臨床検査部	教授	中島 収
	病理学講座	准教授	秋葉 純
	病理学講座	講師	小笠原 幸子
	病理学講座	助教	草野 弘宣

2) 研究の意義と目的：

今回研究を行うのは、肝臓がんの診断の助けにする検査薬です。測定する成分の名前は、マイクロソーマル エポキシド ハイドrolラーゼ（以後 mEH と略します）及びアポトーシス インヒビター オブ マクロファージ（以後 AIM と略します）といいます。

mEH は、肝臓の中に多く存在する薬物を分解する酵素の一種です。正常なヒトでは血液中に出てきませんが、肝がんができる時に血液中に出てくるのが報告されております。一方 AIM は、白血球の一種のマクロファージから作られる蛋白で、脂肪肝や肝がんが増加することで、これらの病気を抑制すると考えられております。

血液中の mEH と AIM を測定することで患者さんの負担が少ない肝臓がんの新たな検査法を開発できる可能性があり、現在これらの検査薬を検査会社で研究中です。その検討を進めるために、患者さんの肝臓がんのどの部分で mEH と AIM が作られるか、その時の血液中の mEH と AIM はどれくらい増えるかを調べる研究を、久留米大学と検査会社により共同で行います。

3) 研究の方法：

本研究では、肝細胞がんができる時期のこれらのタンパク質の意義を調べることを目的としています。久留米大学では、患者さんの肝臓がんのどの部分で mEH と AIM が作られるかを調べます。また検査会社では、肝臓がんの患者さんでは血液中の mEH と AIM はどれくらい増えるかを調べます。

4) 研究期間：倫理委員会承認後～平成 29 年 12 月 31 日

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：

肝がんを早い段階で見つけて治療を開始することが重要ですが、そのような診断薬はまだありません。また、近年増加している肥満や糖尿病で起こりやすいタイプの肝がんには、新たな診断薬が求められています。

本研究では、久留米大学にて採取され凍結保存されている肝臓の組織と血液を使用します。また、過去に実施された肝臓の検査の数値を参考にすることがあります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

本研究は患者さんのプライバシーに十分に配慮し、個人情報を守る方法で行います。

7) 研究成果の発表の方法：

本研究での研究成果は、学会での発表及び論文により学術誌への発表を行う予定です。

8) 利益相反：

本研究は、検査会社であるエーディア株式会社より資金提供を受け、同社との共同研究として実施します。資金提供者であるエーディア株式会社は、血中 mEH 濃度・AIM 濃度測定を実施しますが、久留米大学における研究実施、結果の解析と解釈に関与することはなく、意図的にエーディア株式会社都合の良い成績となるよう導くことはありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

研究代表者：

久留米大学 病理学講座 教授 矢野 博久

福岡県久留米市旭町 67

Tel: 0942-31-7546

Fax: 0942-32-0905